いいじまち 議会だより

若い衆の心意気

〈3月定例会〉

平成28年度予算を可決
3つのチャレンジ P 2 ▸▸ 3

9人が町政を問う P 13 ▸▸ 21

町民の声を議会に
「越百」と「こすも」クラブ P 22

第73号 平成28年4月15日
発行：長野県飯島町議会

3月定例会

新年度予算

2つの風で3つのチャレンジ

町長の考え（施政方針）

新町長として、民間と行政の２つの風を吹かせ、安心・幸せ・子どもが夢を持てるまちづくりを進めたい。創意工夫と各種補助事業を積極活用し、町の基本計画に基づきながら３つのチャレンジを行う。

1）風通しのいい行政へのチャレンジ
2）儲かる飯島町へのチャレンジ
3）田舎暮らしランキング日本一へのチャレンジ

風通しのいい行政へのチャレンジ

○子育て支援センター移設
（ネウボラ＋）＊　6772万円
＊妊娠から中学まで子育てアドバイス
○防災拠点施設新設
（子育て支援センターに併設）
1億3252万円
○指定避難所トイレ整備
5865万円
○予防接種・感染症対策
2423万円
○福祉医療給付費　4284万円
○病児・病後児保育　12万円
○地域未来塾・土曜塾　149万円
○開業医支援　3276万円
○B&Gプール改修　4972万円
○道路改良工事　600万円
○千人塚ため池改修　600万円
○広域農道歩道整備（測量）
2505万円
○ハザードマップ更新　80万円

儲かる飯島町へのチャレンジ

○飯島町営業部　649万円
○事業用施設新増設支援
1000万円
○小企業事業情報発信　70万円
○町大型バス更新ラッピング
480万円
○移動店舗車両活用　18万円

田舎暮らしランキング日本一へのチャレンジ

○農地付き格安住宅研究
827万円
○アルプス花の里　150万円
○千人塚～与田切周遊コース整備　150万円
○飯島駅前観光看板　47万円
○定住定職応援補助　50万円
○飯島マルシェ補助　349万円

その他の予算

○飯島町発足60周年　542万円
○地域おこし協力隊増員
（2人 → 10人）　4071万円
新任
・飯島町営業部 ……1名
・道の駅田切の里 ……3名
・町の駅 ……1名
・農業振興　農ボーイ・農ガールによる新テッポウユリ再興など ……3名
継続
・出会い・婚活 ……1名
・新エネルギー ……1名
○国の予算連携
・情報セキュリティ強化
・中央アルプスジオパーク構想を活用した観光地域づくり

平成28年3月議会は、2月24日から3月15日までの21日間の会期で開催。

平成28年度全会計予算、条例改正を審議し可決しました。

平成27年度補正予算案は、1件を可決し、1件は議会修正案を可決しました。陳情2件は5ページに示す結果となりました。また新教育長の選任に同意しました。

全案件を全員一致可決・同意しました。

一般質問には9人が立ち、町政をただしました。

議会の結論　（総括質疑・討論　詳細はP4～P6）

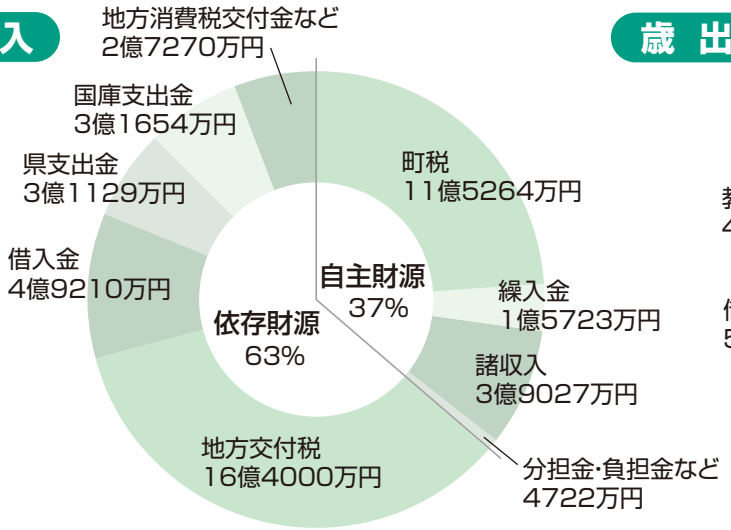
- 新規事業に正規職員増も検討すべき。保育士の待遇改善を。
- 障がい者の生活介護充実を。
- 地域おこし協力隊の自主性を尊重すべき。
- 景観・地下水・放射性物質など環境には強い規制を。
- 滞納には福祉と連携した対処を。
- 道の駅（花の里）への助成見直しを。
- 限られた予算内で工夫し補助金活用の新事業を評価する。
- 子育て支援・病児保育・買い物弱者支援の施策を評価する。
- 飯島町営業部に積極策を期待。
- 実施計画にもとづく堅実な予算を評価する。

→ 全員一致で予算案を可決

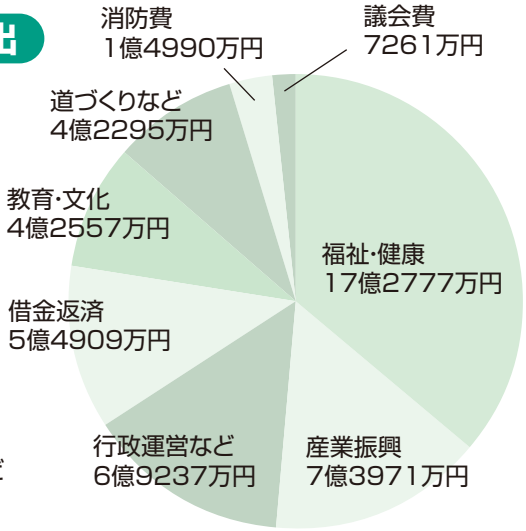
全会計予算

会　計　名	予　算　額	前年度比
一　般　会　計	47億8000万円	7.2%
国民健康保険	11億4121万円	1.9%
後期高齢者医療	1億2582万円	8.9%
介　護　保　険	10億6598万円	2.6%
公共下水道	3億7288万円	▲1.8%
農業集落排水	2億7319万円	2.4%
水　道　事　業	3億6699万円	▲5.2%
合　　計	**81億2609万円**	**4.6%**

歳入



歳出



3月
定例会

「飯島町営業部」立ち上げに615万円

3月定例会では、執行を急ぐ補正予算を議会初日に議決し、最終日にその他の補正予算を議決しました。

平成27年度 一般会計補正予算（7号） 総額48億6596万円に

主な使い道

○人件費（人事院勧告による） 640万円
○国民健康保険特別繰出金 1384万円
○道路除雪など 1300万円
○大井川河川改修工事（緊急） 270万円

特別会計（決算見込み）

国民健康保険
総額11億4689万円に

後期高齢者医療
総額１億2114万円に

介護保険
総額10億5436万円に

水道事業会計
総額２億1624万円に

平成27年度 一般会計補正予算（8号） 総額49億4893万円に

議決前の事業執行が確認されたため、町提案を否決。議員動議の修正案を全員一致で可決しました。

主な補正財源

国から
○地方消費税交付金 5200万円
○社会保障・税番号制度システム関係補助金 1409万円
○情報セキュリティ強化対策補助金 575万円

県から
○地域未来塾事業補助金 331万円

町債（借金）
○情報セキュリティ対策事業 310万円

主な使い道

○七久保駐在所・消防第５分団詰所用地購入 1000万円
○情報セキュリティ強化対策 3222万円
○アンテナショップ運営補助 257万円
○地域未来塾備品 331万円

駐在所・消防詰所敷地の購入

請願・陳情の本会議審査結果

内　容	提出者	付託	結　果
スーパーマーケット誘致を	芦部 喜由	総務	**趣旨採択** 賛成11 － 反対０
歪んだ憲法感の是正を	平和って何だ・伊那谷	総務	**不採択** 賛成０ － 反対11

意見書

内　容	提出者	結　果
安倍首相に憲法改正の見解表明を求める	浜田 稔 議員	**可決** 賛成11 － 反対0

27年度一般会計補正の経過

臨時会　1月19日
補正第6号
補正額6140万円
（農業経営転換協力金など）

▶

定例会　2月24日
補正第7号
補正額1024万円
（執行を急ぐ補正）

▶

定例会　3月15日
補正第8号
補正額8297万円
（情報セキュリティなど）

▶

臨時会　3月28日
補正第9号
補正額6734万円
（地方創生加速化交付金など）

予算計上主義・委員会審査が定着
1月、3月に臨時会

年明けから臨時会が2回開催され、3月の定例会を含め27年度予算の補正が4回行われました。町長による専決処分を極力減らし、議会も委員会に分割付託して慎重に予算審査する方式が定着してきました。

第1回 1/19

待ちに待った

買い物弱者対策　移動購買車購入

平成28年第１回臨時会が１月19日に開催されました。
条例改正案件１件、補正予算案件１件、物品売買契約案件１件を審議し、いずれも全員一致で可決しました。

条例改正

飯島町税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する。

平成27年度
一般会計補正予算（6号）
総額48億5571万円に

主な補正財源

県から
○経営転換協力金　4810万円
○地域集積協力金　250万円
○担い手経営発展支援事業　80万円

寄付から
○ふるさといいじま応援寄付金　1000万円

主な使い道
○ふるさと納税ＰＲ特産品　450万円
○ふるさといいじま応援寄付金積立金　1000万円
○経営転換協力金　4810万円
○地域集積協力金　250万円
○担い手経営発展支援事業　80万円
○予備費　▲453万円

物品売買契約
道の駅「田切の里」へ移動購買車購入　786万円

移動購買車（完成予想図）

第2回 3/28

トレーラーハウス購入と岩間拠点支援施設建設 確定（28年度へ繰越事業）

平成28年第２回臨時会が３月28日に開催されました。
条例改正案件２件、補正予算案件１件を審議し、いずれも全員一致で可決しました。

条例の一部改正

法改正に伴う条例改正2件。

平成27年度
一般会計補正予算（9号）
総額50億1627万円に

主な補正財源

国から
○地方創生加速化交付金　3154万円
○地域介護福祉空間整備事業等交付金　3397万円

主な使い道
○お試し居住チャレンジ事業（トレーラーハウス２台）　2429万円
○介護予防・生活支援拠点施設建設（岩間集会所）　3281万円
○特産品開発補助　610万円

総務産業委員会

町営業部

積極的営業で産業振興を

平成28年度飯島町会計予算の一般会計分割付託分と公共下水道・農集排・水道事業を審査し、全員一致で可決しました。

総括質疑

問　地域おこし協力隊関連予算として、隊員の配置前に活動費が計上されている。隊員の創意工夫を生かせるのか。

町長　活動費は大枠で取ってある認識だ。当然隊員の活動に柔軟に対応できるよう十分配慮する。

問　飯島町営業部は企画だけでなく、農産物の販路を拡大し、農家収入増を図る積極営業をするべきだが。

町長　インターネットも使いながら、新たな販路拡大を視野に入れている。

飯島町営業部の事務所

問　千人塚までの周遊コース計画が予算化されている。桜の老化対策や樹種転換、周辺の開発構想はあるか。

町長　桜は専門家の意見を聞きたい。桜に限らずお花畑構想・中央アルプス国定公園化・ジオパーク構想もあり、重要なポイントとして考えていきたい。

問「道の駅花の里」などに助成金が変わらず出ているが、今後の考えは。

町長　助成し続けることには懸念もある。見直しもして行きたい。自立の方向を望んでいる。

問　滞納整理機構の委託料も盛られている。生活困難者への強行取立になってはならない。町では要保護・準要保護児童が増えている状況にあり、福祉関係部署との綿密な連携を求める。

町長　税は公平の原則がある。一方、実情もある。庁内関係部署の税・福祉・建設・教育などと連携協議を行っている。現実に執行停止や誓約書期限の延長も実施してきた。不幸な結果を引き起こさないようにしたい。

問　上伊那広域ごみ中間処理施設の負担金に、市町村間で不公平感がある。見直しの働きかけは。

町長　公平性がどこにあるか研究し、意見を随時申し上げる。

問　移住・定住に上伊那広域連携で取り組むが、画一的な取り組みであれば、市町村間の公平性に問題が生じないか。運命共同体の中部伊那ブロックの方が有効だと考えるが。

町長　上伊那広域連携は予算確保のための連携と認識している。市町村に分配されるものだ。連携には伊南４市町村もあるが、取るか取られるかになる。中部伊那４町村には多くの共通点があり、重要だと考える。

問　景観計画や下水道事業の経営戦略策定にコンサルを入れているが、地域の実情や住民感覚を生かしたものが求められるのではないか。今後農集排との合併などの検討も「経営戦略策定」でされることを求める。

環境問題・太陽光パネル・地下水保全・放射性物質など、地域全体を守る強い規制が必要だが。

町長　各種計画は、職員が自分で出来る限り作っていく事が必要だ。

放射性物質・地下水源・太陽光パネルには懸念を持っている。法律専門家の助けが必要だ。

問　顧問弁護士との契約も考えているか。

町長　展望の中にある。弁護士だけでなく、公認会計士との顧問契約も必要になる。

問　40歳未満Ｉターン優遇の住宅建設補助金制度を、Ｕターンなどにも対象を広げるべきだが。

町長　間口を広げる意味でも見直したい。

問　ふるさと納税お礼品のワンランクアップで、寄付金をもう１桁伸ばせると思うが。

町長　特産品に絞ったお礼品の

見直しや拡充で、地域産業にも波及させたい。インターネットも有効利用し伸ばしていきたい。

賛成討論

一般会計

○実施計画に基づく堅実な予算となっている。
○新しい事業を打ち出した中でも、財政指標は順当なものになっている。限られた枠の中で工夫と意欲が見られる。
○夢が盛りこまれ、住民も力を得て行けると感じる。
○営業本部長は町長だ。営業力発揮に期待する。

下水道事業会計

○加入率が80％で、今後の大幅な伸びは期待できない。的確な運営を求める。

水道事業会計

○起債を多く抱える中で、的確な予算である。今後どこに宅地造成するかなど、計画的に対応する運営を求める。

陳情審査

趣旨採択

スーパーマーケット誘致

提出者　芦部 喜由（きよし） 氏

賛成４　反対０

◆ **内容**

飯島の中心地籍にスーパーマーケットを。

趣旨採択に賛成

店名を限定せず、飯島の町部に食料品店の拡大・充実を求める趣旨は、町民の共通の思いである。

条例審査

付託された2条例案を審査し、全員一致で可決すべきものとしました。

飯島町行政不服審査条例及び関連条例

問　審査委員名の公開が必要だが。

答　審査は非公開だが、近隣の例を見て委員名公開の方向で進めたい。

賛成討論

行政に対する不服審査が一歩前進し評価する。

不採択

まっとうな改正論議を保障するため、安倍首相に真摯な姿勢と歪んだ憲法観の是正を求める。

提出者　平和って何だ・伊那谷

角（すみ）　憲和（のりかず）氏

賛成０　反対４

◆ **内容**

まっとうな国民的議論を保障する４条件実行を。

反対

・文言が不適切。
・趣旨には、賛成できる重要な部分もある。
別に健全な憲法論議を進める意見書を提出。

補正予算審査

▶ 3/15

予算案が可決される前に不適切な執行のあったことが認められ、修正案を提出し全員一致で修正可決しました。

質　疑

問　３月10日の「まじいい元気道場」の講演は、議決前の事業執行ではないのか。

企画政策課長　議決前の執行だった。

問　こうした講演は、町民に広く参加を呼びかけるべきだが。

町長　まちづくりの一環としてお試しで近くの住民に声をかけた。今後は多くの人に声掛けしたい。

意　見

手続きや原則を無視した予算決定前の事業執行は黙認できない。今後このようなことは決してあってはならない。

▶ 3/28

全員一致で可決しました。

質　疑

問　何故トレーラーハウスか。

答　車両は交付金の対象となる。

問　大きさは。

答　長さ11m・幅3.4mと少し小さい２タイプを検討している。

討　論

賛成　地方創生加速化交付金を活用して、登山道整備や定住促進など、手のつかなかった事業を評価し賛成とする。

社会文教委員会

子育て支援　職員が働きやすく

平成28年度飯島町各会計予算の分割付託分を審査し、全員一致で可決しました。
また町事業の現場調査をしました。

主な質疑

健康福祉課

保健医療係

問　食育推進事業の所管が、教育委員会から保健医療係になり、職員の仕事が増える。計画策定など確実に進めていけるのか。

答　重要な事業だ。計画内容の見直しに努めなければならない。

地域福祉係

問　障がい者のショートステイを「やすらぎ」で対応できないか。

答　現在「まんてん」で行っているが「やすらぎ」は地域包括補助事業の関係からできない。障がい者の生活介護は遅れているので考えていきたい。

問　地域支援コーディネータの役割は。

答　地域の力を借り、人と人のネットワークをつくることが仕事。先進事例を見ながら検討する。

教育委員会

子ども室

問　新設するファミリーサポートセンター事業を、社協に委託するということだが内容は。

答　他の補助事業で行えない園児・児童を預かる事業。子育てするサポーターは町民から募集する。コーディネータは社協職員が担当。

　サポーター協力会員には約20時間の講習や意見交換などを行い、任期は３年の予定である。

問　子育て支援センターが文化館駐車場西に新設される。大きなイベントの場合、駐車スペースは足りるか。

答　役場周辺の駐車場も使うことで補える。センターはできるだけ西に寄せて建設する予定である。

生涯学習係

問　陣嶺館など町に寄贈された物品のデータ化は。

答　ペーパーで台帳を作成したが不明の物もある。今後データ化を検討したい。

問　昨年文化館にプロジェクタの要望があったが、予算化されていない理由は。

答　検討の結果、現状でもできる事が分かった。また、県から借りることもできる。

完成した地域交流拠点を視察

総括質疑

問　保育士は正規・臨時・パートタイマーが従事している。充実した保育環境づくりのためには、待遇面も含めて賃金格差の改善が必要だが。

副町長　正規と臨時との割合は１：１。以前にも改善は行ったが、今後も状況を見ながら対応していく。

問　当町には公衆トイレが少ない。新年度予算で、運動場のトイレの改修をすることになっているが、管理委託などで常時解放できないか。

教育長　運動場のトイレは、イタズラなどがあり公衆用として使用することは考えていない。管理委託ができれば検討する余地はある。

問　地域福祉総合事業が始まるが、保健師が十分そろっていない中で進めるのは大変だが、どう考えるか。

副町長　育休中の保健師２名が復帰してから取りかかる予定。また、教育委員会の子育て支援でも「飯島版ネウボラ＋」*を実施するため必要な人員を配置することとした。
＊妊娠から中学までの子育てアドバイス

問　新規事業が増えている。正規職員の100人体制を見直していく必要があるのではないか。正規・臨時も同じ仕事内容だが、待遇に差ができないようにすべきでは。
副町長　国は、同一労働・同一賃金を目指している。順次体制を整え、経験年数の長い臨時職員から嘱託化して、人員確保を図る。

問　職員体制が変わらない中、予算化した事業を着実に実行していくには、副町長が全体のバランスを見渡した方がよいのではないか。
副町長　事業全体のボリュームが増しているが、職員一人ひとりが自分で考え、出来ること・出来ないことを判断する必要がある。

問　地域未来塾・土曜塾を実施することとなっている。
先進地では、子どもたちのたまり場・遊び場になっていると聞く。
本当に勉強したい子、経済的に塾に行けないが勉強したい子のため、本来の目的に沿って学習ができるよう進めてもらいたい。
教育長　その趣旨にのっとり進めていく。

賛成討論

一般会計

○子育て支援センターは、住民要望を反映したものとして評価する。また、災害も想定した施設でもあり、期待している。
○七久保学童クラブができるということで今後期待したい。
○国の在宅介護・医療・総合事業などは、住民の意見を取り入れて進めてもらいたい。
○子育て支援・病児病後児保育・買い物弱者・在宅支援・水の駅を前面に出した予算として評価する。

国保会計

○保健予防に努め、医療費が全国で34番目に低い。
健全な運営を評価する。

介護保険事業

○制度が変わり新しい事業が入ってくる。介護される立場に立った事業確立を期待し賛成。

補正予算審査　3/15

平成27年度飯島町一般会計補正予算の分割付託分を審査し、全員一致で可決すべきものと決定しました。

質疑

問　待機児童の現状は。
答　現在はいない。３か月前の要望で対応する。職員が足りなければ募集する。

老朽化著しいB&Gプールを視察

キッチンカー納車

キッチンカーが走る！

イベント活性化を支援

地方創生事業で計画したキッチンカーが、このほど納車されました。イベントなどの移動飲食店舗として活用されます。

町内団体には貸出も行われ、地域イベント活性化に活躍が期待されます。

施設介護と在宅介護を先進地に学ぶ

社会文教委員会研修　1/21～22

先進地の、阿智村社協と泰阜村の視察研修を行いました。

阿智村社協では、特養の阿智荘、デイサービス３施設などを経営しています。

事業費は年間約5億2600万円で約1800万円の黒字運営です。職員数は129人（正規50人）で施設型介護サービスが充実しており、介護保険料は県下で2番目に高いそうです。

職員の高齢化と中途退職が多く、処遇改善による人材の確保が課題となっているそうです。

また民間で「障がい者グループホーム」を運営しており、官民協働の幅広い福祉先進地であることを実感しました。

翌日は泰阜村の松島村長を訪問し、泰阜方式の在宅支援を学びました。「老いと共生し、在宅で終末を迎える」在宅介護・医療・福祉に力を注いでいます。

村単独事業で介護個人負担の60％を補助しています。

村長は『行政のあるべき姿は、本当に困っている住民をどれだけ把握し、支援するかだ。』と語られました。

また、新野のスーパー㈱蔵（くら）で移動購買車を視察しました。

この視察には、飯島町社協後藤会長にも参考人として同行いただきました。

民間の移動購買車で在宅支援

追跡 あれどうなった

一般質問・審査での意見・請願陳情
その後のゆくえ

平成26年6月議会　一般質問

問 グリーンベルトの設置を。

答 歩行者の安全向上のため計画的に進めていきたい。

その後

平成28年1月

町道旧飯島飯田1号線
北街道～柏木に設置

カミ（紙）頼みを卒業 タブレット導入を視察

議会運営委員会研修　2/8

3年前からタブレットを活用中の岐阜県関市議会を訪問し、視察研修を行いました。

議員がタブレットでメモ書きしたり、研修風景をその場で撮影してプロジェクタに表示したりと、私たちの目の前で懇切丁寧にICT化の有効性を実演・説明して下さいました。

関市議会では平成25年の12月定例会から、資料はデータ配信のみで紙の配付はやめました。以後2年間で紙18万枚・約63万円を削減でき、導入費用に十分見合うとのことでした。

飯島町議会は議会活動の向上を検討しており、4月からタブレットの試行導入を目指しています。

活用の具体的な姿をつかむことができました。今回の研修を生かして着実な導入を進めます。

会議資料もタブレットで

一般質問

町政を問う

9議員が質問

ここが聞きたい

久保島 巖　新年度予算
下平イズムは出せたか …… P13

折山 誠　蕎麦の里
町も実現に協働を …… P14

滝本 登喜子　農産物加工施設
利用グループ育成を …… P15

本多 昇　太陽光発電
設置規則が不備だ …… P16

中村 明美　人口増
若い世代の住宅開発を …… P17

橋場 みどり　地域国際化
多文化共生社会を …… P18

竹沢 秀幸　放射性物質
条例で規制を …… P19

堀内 克美　農業
町の基幹産業か …… P20

浜田 稔　大規模太陽光発電
徹底規制を …… P21

「一般質問」とは行財政にわたる議員主導による政策の議論です。（通告順）

ひとこと広場

毎月とても分かりやすく飯島についての情報をお伝えいただき有りがとうございます。
自分も飯島についてもっと知りよりよい町作りに協力していきたいです。

中学生には難しくてあまりわかりませんでしたが、いつも見なかった議会だよりを見て、飯島町の現状を少しでも知ることができました。

議会だより表紙の場所はどこですか。議員の皆さまの写真とお名前が覚えやすくて、大変良いと思います。

文化館の駐車場のトイレ何とか使えるようにしてほしいです 仲間5人の意見です よろしくお願い致します

※今回は新町長体勢となり、議会、町制に対して、関心が強まっています。
今後も細やかな確実な情報の提供をお願いします。

新年度予算

下平イズムは出せたか

私と職員の思いが融合　町長

久保島　巖

問　就任後初めての予算編成で、新規事業が多く盛られた。町長の思い「下平イズム」が発揮できたか。

町長　公約で子育て支援は重視してきた。実施計画の支援センター建設を前倒しして予算化した。私の思いと職員の思いが融合したものだ。

問　新年度の目玉事業は何か。

町長　1番は「子育て支援センター」だ。

　2番は「飯島町営業部」で、町民と行政が共同して町を売りこむことだ。

　3番は「新町発足60周年」で、政策再スタートの契機にするよう年間を通じて事業を展開する。

問　町のキャッチフレーズを「子育てパラダイスいいじま」に変えたらどうか。またホームページでの活用を提案する。

町長　心に残るワンワードは重要だ。「子育てパラダイス」は新年度のキャッチフレーズなので、提案どおりホームページでも目に付くように載せていきたい。

協力隊員の活用は適正か

問　地域おこし協力隊が10人に増える。3年後の定住に結びつく採用や支援になっているか。

町長　具体的テーマをもって募集した。また活動終了後の町へ定住の意思も確認している。

　任期中に終了後の自立や起業に向けた活動も想定している。

問　「飯島町営業部」や「まちの駅」にも隊員が配備される。その場所とすみ分けは。

町長　「飯島町営業部」は駅南の空き店舗を利用し、外に押し出す戦略に取り組む。「まちの駅」は地元の皆さんと協力し、町中活性化の実践をする。

いいちゃんバスの広域連携を

問　町長は選挙中「定住自立圏構想」の推進を取り上げていた。定住自立圏構想の中心市は、最低人口4万人だ。近隣では、伊那市と飯田市しかないが。

町長　「町が全て自前で揃える時代ではない」という思いで表現した。行政間の協力の時代という意味でご理解いただきたい。

　まず伊南4市町村で問題点を共有し、具体的事業に取り組んでいく。

問　伊南行政の一般質問に杉本組合長は『市町村を超えて、いいちゃんバスや中川村巡回バスの共同運行を検討したい』また『必要性を各市町村の担当レベルで研究していきたい』と答えた。早急に取り組むべきだが。

町長　駒ヶ根市内の施設や店舗が利用できる路線の要望もある。

　駒ヶ根市は巡回バスを廃止しており、駒ヶ根市民にも利便性が高まる。

　町・駒ヶ根市の商業者やタクシー業者、市民の理解が必要だ。伊南地域の研究の中で、調整していく。

〔以上３件質問〕

市町村を越えた運行を

折山　誠

蕎麦の里

町も実現に協働を

魅力づくりを支援　町長

問　行政と民間協働で「信州蕎麦のふる里いいじま」づくりが進んでいる。主要道路や観光拠点へ看板を設置し、ＰＲが必要では。

町長　蕎麦の会の活動は、食文化・人材も含めて大きな地域資源になってきている。看板設置は、町のイメージアップにつながる。

　表示するキャッチフレーズ・心に残るワンフレーズは、住民の熱意で考えてもらいたい。

　またインターネットやパンフレットにも活用し、拍車をかけたい。

問　地元産の蕎麦と小麦を地元で製粉し、里づくりを確固たるものしたいという機運が盛り上がっている。

　民間の機運盛り上がりを町が後押しすべきと思うが。

町長　地元で製粉したおいしい蕎麦は、大きな魅力である。本物づくりのために必要な施設だと思う。

　国や県の補助制度が活用できればと思うので、構想が具体化したら相談してもらいたい。

新年度予算編成にどう臨んだか

問　町長の政策の多くは、住民の協働をベースにしている。予算編成手法に民意反映の新しい取り組みはあったか。

町長　職員には、これまでの積み重ね・想い・継続性をもって、私の公約に基づく事業を組み込んでもらえた。従来の手法と大きな違いは無いと思っている。

アンテナショップは長期的展望で

問　新年度から営業日を週6日から2日に縮小する。新しく吹き始めた情報発信の風を遮断することにならないか。

副町長　町をよく知っている職員が出向き接客対応すべく、営業日数を精査した。

町長　営業日を限定することで町の特産品の希少性を付加したい。

問　現地採用の職員を大切にし、自ら飯島ファンになって働いてもらうことが大切では。短期の利益主義で、長期の展望をもった事業を後退させてはならないと考えるが。

町長　インターネットの活用が盛んな今、実店舗のアンテナショップ運営は難しい。今後も試行錯誤がある。

町道除雪エリア分けは適正か

問　町が除雪すべき幹線道路は年々変化している。地域と町のエリア分けを随時見直すべきでは。また、町と町民の除雪エリアの分担を毎年公表し、合意の形成に努めているか。

建設水道課長　毎年11月に除雪協力を区会・耕地・自治会へ、除雪路線図を添えて文書で依頼している。　〔以上４件質問〕

蕎麦の里づくりで町を活性化

農産物加工施設 利用グループ育成を 営業部で支援 町長

滝本 登喜子

問　西庁舎の農産物加工施設は２つのグループが利用している。
過去には加工グループが起業した例がある。新グループの育成をどう図るか。

町長　グループ育成支援を目指し、講演会を４回開催した。利益が出ることは励みになるが、商品を売ることは非常に難しい。

新施策の「飯島町営業部」でも支援していきたい。

問　現加工施設を有効活用するため、設備や機械を増設し、販路拡大を図るよう求める。

町長　今後新たな加工グループから希望があれば、施設整備が必要だ。町は、グループを立ち上げ、商品開発できるところまでを支援したい。

道の駅「花の里」や「田切の里」など他の加工施設も経営者と協議しながら検討する。

観光振興と都市の交流

問　古民家などを改修し、民泊・ゲストハウス・農家レストランなどとし、都市との交流を図る具体策は。
まず拠点を設ける必要があると思う。そして、農業体験や四季を通してのイベント計画を町で立てるべきでは。

町長　行政が直接古民家などを改修し経営することは難しいが、リフォーム補助金の活用で定住促進の支援をしていきたい。飯島町の特性を生かし、体験を含めた観光のメニューでまちづくりをしていきたい。

問　アグリネーチャーや紅葉園の運営・活用をどう考えるか。

町長　アグリネーチャーは、自然を生かした体験ができる民間施設として、都市農村交流の推進に協力していただきたい。

また、紅葉園も滞在型の町観光施設として活かしていきたい。

パワフルウィメン！！

子育て支援の取り組みは

問　子育て支援事業の「子育て勉強会」は、親だけでなく、地域の人を対象の講座や座談会の開催であるべきでは。

教育長　子育て勉強会は本年度初めて取り組み２回実施した。来年度さらに回数を増やしたい。

参加者のアンケートに、地域や企業の連携が必要という意見があった。地域全体で子育てを応援する意識を高めることは、必要だと思う。

「子育てパラダイス」は、地域みんなで育てるという風土をつくり上げることだと考える。

問　子どもの食育対策は。また、「飯島版ネウボラ＋」の中での具体策は。

教育長　保育園児・小・中学生に対しアンケートを実施している。その結果を家庭に通知し、生活習慣を見直す学習に取り組んでいる。

新一年生には「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発用鉛筆とパンフレットを贈る。

地域の皆さんや推進団体と共に取り組むのが一番だと考えている。

〔以上３件質問〕

本多　昇

太陽光発電

設置規則が不備だ

検討する　町長

問　課題は大きく３つある。
・事業者や住民が規則の内容を理解していない。
・地域住民に対する説明が不足している。
・堅牢な基礎を施工していない。

住民税務課長　指摘の通りである。地元合意には、十分な説明をもって理解を得る必要がある。

問　課題の対策を提案するが。
・規則の存在を周知させる。
・規則を見直し必須の説明項目などを書式化する。
・風圧に対する基礎と本体強度の条件を規則に追加する。

住民税務課長　地域とのトラブルがなく、将来にわたって善良な管理ができるような内容の規則を目指して検討していく。

新年度予算

問　地域おこし協力隊員が10人に増える。公約した新規事業をすべて協力隊員に委ねている。
今の職員では対応できないのか、財政負担がないから活用するのか。

町長　地域の課題に即した目的で採用している。業務に対応した適正な人数だ。
支援制度を最大限に活用し、地域の活性化や定住促進をすすめる積極的な取り組みだ。

問　長期的視点で、職員の適材適所・定数の見直しも含め、地域おこし協力隊に頼らない体制づくりも検討すべきだが。

町長　職員の力で町づくりが十分できるよう、職員資質向上教育に力を入れていく。

柏木運動場周辺整備

問　飯島FCと飯島町総合型スポーツクラブから町南部防災拠点への５項目の提案があった。大型車両の乗り入れができる道路用地の確保・ヘリポートと駐車場の分離などである。

総務課長補佐　道路の拡幅など防災面で十分な配慮が必要だと認識している。体育館・運動場を含めた多目的なスポーツ施設としての整備にあわせ、防災拠点として順次整備をする。

問　トイレ・手洗い場所の新設、グランド拡幅の用地確保など９項目も提案されているが。

教育長　外トイレは新年度予算で計上した。新年度早々意見を聞き、利用者が快適に使用でき、かつ災害時にも活用できるよう優先順位を決めて検討していく。

空き家対策

問　今後の方針は。

住民税務課長　空き家対策特別措置法で対応し、町独自の条例・規則は設けない。
来年度正確な実態調査をし、空き家と跡地の活用に努めていく。

〔以上４件質問〕

整備を待つ柏木運動場周辺

人口増 若い世代の住宅開発を

住宅環境づくりに努める 町長

中村 明美

問　県発表の2015年人口増減の結果では、当町は社会増だが、自然減だ。それは若い世帯が少ないことにあると言える。結果をどう分析したか。

町長　当町の社会増は、長年の行政施策の努力と思う。特に定住促進室の成果ともいえる。

問　町の伝統を継承するためにも、地元の若者が住みたくなるような住宅地の開発が大事。

若い世帯の増は製造人口・出生率・税収にも影響が及ぶ。若い世代向けの住宅構想を地元建築業者などと進めては。

町長　若者に選ばれる住宅環境づくりと情報の拡充に努める。

提案の町内建築・建設・不動産業者などとの意見交換や連携をしっかりと図っていきたい。

問　飯島発足60周年を機会に、区の体制見直しの検討を始めるべきでは。

耕地・自治会では、高齢者世帯増と世帯数減少で役員選出に苦慮している。

地域づくり委員会は、任期1年の当て職が多く事業が進まない。

区の財産などの運用は高齢化が進む中で維持し続けられるか。区会は果たして必要なのか。時代と共に町から区・耕地への付託項目が増え大変だ。町は区の課題をどの程度認識しているか。

町長　区・耕地・地域づくり委員会の役員確保には、人口減少や仕事の多様化で、非常に苦労されていると思う。町民の声からもそういう問題が出て来ていると認識している。

問　耕地・自治会役員は世帯数による対応、また各役員が必要か否かの精査を今後考える必要があると思うが。

区の事業会計の簡素化。理由は、道路・水路・山林を区や耕地・自治会の事業としてではなく、全町民の生活を支えている事業と捉える観点から。

各区からの代表者で構成する地域づくり委員会にして、区の壁を外す。

各区民の基本構想に対する認識を深め、情報交換や各区の文化・芸術・歴史を尊重し合える環境づくりへとつなげる。

区の組織改革は容易ではないが「協働のまちづくり」を進める上でも、現状を把握し考えて行くべきでは。

その一歩として今年度は４区長と課題の洗い出しや意見交換を開始してはどうか。

町長　行政改革も必要だが、町におけるコミュニティーの改革も重要と思う。町民の同意に基づき、新しい時代に対応した町の姿を折々に考える必要があると思っている。また区長・耕地総代・自治会長の意見を聞きながら対応をしていきたい。

風通しのいい行政とは、行政からの風・町民からの風が双方に届くこと。それには組織が大事であり、しっかり考えて行きたい。

ほかに、子育て支援では内面的(心)向上への取り組みが重要では、についてただしました。

〔以上２件質問〕

飯島で　いい暮らし

橋場 みどり

地域国際化

多文化共生社会を推進に努める

町長

問　地域住民が国際化に向かっている一方、行政は進んでいるように見えない。町は国際化に乏しいと言われている。

人口減や労働力の不足から外国籍住民の増が予想され、また重要な力となる。町長の心意気の人口15,000人を担う一端でもある。

国際交流は町おこしの大きなチャンスと力になるが。

町長　外国籍住民には、広報誌・町政要覧などの一部英語表記で町の情報提供を行っている。

また、ALTを配置し言語教育支援も行っている。

今後も引き続き国際化を施策に位置付けながら、多文化共生社会の推進に努めていく。

JICAと協力しながら、町の国際化施策を取り入れていく。

問　町内の企業は海外へ進出している。語学はグローバルな展開を図る上では必要なことだ。

物や特産品を外に出すだけではなく、今は能力の構築も目的に人を海外に派遣している。

協力隊経験者の雇用アピールをJICAにしてはどうか。

町長　提案されたことは非常に大切だ。定住促進室や産業振興課でも、企業に青年海外協力隊経験者を紹介する機会を持っていきたい。

問　学校とJICAとの交流をはかり、教育の場で今以上に、国際理解をすすめるべきではないか。

教育長　国際化は、国際感覚を育て磨くための手立てであって英語が話せる子どもをつくることではない。

例えば外国の人々に、日本や飯島の文化を誇りをもって話せる感覚が国際感覚であり、国際化だと考える。

日本人としてのアイデンティティを育て、その延長で国際感覚を身に付けた子どもを育てることが肝要だ。

男女共同参画の今後は

問　男女が、将来のために支え合い、社会参加していくことは重要だ。『無理むり！』という女性が価値観を変えていくためには、身近な地域の理解が不可欠だ。

今後の取り組みは。

町長　県の事業などを活用した講座や講演会を行い、広く住民に参加してもらいたいと考える。

男女共同参画プランの検証や住民アンケートなども実施し、平成30年度に策定する飯島町男女共同参画プラン「心をつなぐまちづくりパートⅤ」に反映する。

教育長　「男は男」・「女は女」の仕事という垣根は、若い皆さんには薄れつつある。

実証的なデータは持っていないが、私の感覚として考えている。これは学校教育のひとつの成果と思っている。

この方向で進めていくことがよいと考えている。

ほかに有事の災害対策についてただしました。

〔以上３件質問〕

代官行列にて

放射性物質 条例で規制を 早急に検討 住民税務課長

竹沢 秀幸

問　放射性物質に汚染された廃棄物などの処理事業を規制するため「飯島町さわやか環境保全条例」の一部を改正する必要がある。

また地下水保全も条例に付加することを求める。

住民税務課長　廃棄物の処理事業の規制には多くの課題がある。

豊かで恵まれた自然環境や水環境を守り、将来にわたりその恩恵を享受できるようしなければならない。

住民の平穏で安心な生活環境を守り、健康で住み続けられる地域づくりを進めることは行政の責務である。

条例改正を早急に検討したい。

地方創生交付金活用を

問　地方創生加速化交付金に町はどの事業を申請したのか。

町長　お試し移住の推進として「トレーラーハウス」を整備し、移住に興味のある方に町での生活体験をしてもらう事業を計画。

また、広域連携事業として、中央アルプスの日本ジオパーク認定に向けた取り組みにあわせ、特産品の開発を行う計画。

問　国は地方創生の進化のための新型交付金（地方創生推進交付金）を創設した。

３つのチャレンジ施策の具現化にどう活用するのか。

町長　従来の要件に加え、地域再生計画の策定と時間が必要となる。補助率も２分の１と従来に比べて低い。今後、有効な活用を積極的に検討する。

また３つのチャレンジ施策を、あらゆる分野の補助なども視野に入れ、最も有効な方法で具現化していきたい。

着実な予算執行舵取りを

問　「子育てパラダイスパワーアップ予算」「飯島版ネウボラ＋」などのキャッチフレーズを一人歩きさせず着実な舵取りを。

町長　聞き慣れやすいキャッチフレーズを使った。それは、事業を売る・町を売るために必要だ。

事業の内容を町民によく分かるように説明し、堅実な飯島町の財政運営・事業運営を行っていく。

5S運動展開を

問　ゼロ予算で「風通しのいい行政へのチャレンジ」として５Ｓ運動を提案する。

「整理」「整頓」「清潔」「清掃」「しつけ」だ。

町長　５Ｓ運動も当然必要だ。整理・整頓という基本的な日本の文化、職場の清潔さを保つことが大切だ。

５Ｓ運動にしっかり取り組み、十分な行き届いた住民サービスに頑張る。

〔以上４件質問〕

できるのかな? 放射性物質含有産廃処分場（M村）

堀内 克美

農業

町の基幹産業か

まさに基幹産業　町長

問　町営農センターは30周年を迎えた。飯島の地域複合営農は全国の先進的モデルである。農業を町の基幹産業として捉えるか。

町長　豊かな自然環境を守り引き継ぐために、農業の役割は極めて重要である。取り巻く環境は厳しいが、農村の維持保全のために農業は町の基幹産業と認識している。

問　営農センターは町の機関であるが、一時任意組織とされ、それ以後一般会計から除外された。町の機関であり復活を。

町長　営農センターと農業再生協議会は同一組織であり、そちらに補助金を交付している。

問　2つの組織は一体ではない。他の町機関と同様な取り扱いを。

町長　現場の意見とかい離があることは理解した。お互い納得いくよう協議の場を設定したい。

問　町内の後継者と移住者に対する対策に差がある。

**　また、体験農業など安心して定住できるように様々な体制づくりを。**

町長　担い手確保は重要な課題と理解している。

産業振興課長　親と異なった新たな作目の経営でなければ、国の支援は受けられない。後継者には支援を受けられるよう指導を行っている。

問　移住者の定着には、町を理解するための時間が必要。

**　また、都会の若者を地域の集会所に迎えて宿泊交流を実施し、意見を地域に取り入れている例がある。**

**　農業体験ツアーなど観光とセットした体制づくりを。**

町長　今、都会では田園回帰が進んでいる。観光農業も含めて農業体験も大事であるが町には宿泊施設が無い。町内には集会所が多くあり、集会所を使って地元との交流も面白い。

　民宿許可も法律改正で緩やかになるので検討を進めたい。

問　平成30年に国による米の生産調整が廃止されるといわれている。米は基幹作物であり、町農業の衰退につながる。

**　自主的な生産調整に町も積極的にかかわるべきでは。**

町長　地元の農産物を地元でいかに消費するか、町内の自給自足率をどれだけ向上できるかが課題。

　有機栽培に向けた環境共生栽培による地産地消への取り組みも始まったと聞いている。

　地域通貨で農産物と引き換えにするなど町内での自給自足を高めることが理想。

産業振興課長　国の生産調整廃止は、稲作農家にとって大変厳しい状況が予想される。町としても真剣に取り組んでいく。

問　農村環境の管理に対する国の補助制度がある。すでに耕地・自治会と連携した取り組みが始まっている。町民こぞって対応することが重要であり、自治組織未加入者に協力の呼びかけを。

町長　農業農村を守り発展させていく地域・体制づくりを検討する。

〔以上１件質問〕

営農センター30周年記念式典。むら夢楽塾より

大規模太陽光発電

徹底規制を

法の専門家と研究　町長

浜田　稔

問　町自然エネルギー条例施行後の太陽光発電の設置状況は。

町長　10kW以上は52件で、うち町内事業者は32件。合計出力は3,953kW。全て地元の同意を取っている。隣接地との距離や廃棄後の原状復帰を定めたものもある。

住民税務課長　家庭用も含めると6,947kWで、町内の家庭用電力消費の44％を賄っている。

問　今後の設置見通しは。

住民税務課長　経産省の認定を得ているものが約14,000kWあるが、着工までの期間が長いと取り消されることもある。

問　楽観的すぎるのではないか。町内に経産省のデータどおりの設置が進めば次のようになる。

・発電量は家庭需要の1.5倍。

・パネル面積は今の3倍の27ha（水田90枚分）。

・8割以上が大規模施設。

この姿は町長の目指す「田舎暮らし日本一」にふさわしいか。

町長　空から見ると海苔を張り付けたような黒い大地を想像する。住みたい人はいないだろう。

問　飯島町は、他に先駆けて条例で規制した。しかし、パネル設置の条件である地元合意が地域に摩擦を生んでいる。耕地・自治会長や区長からも重荷だという声が聞こえるが。

町長　パネル設置の許可が、自治会・耕地や区の大きな負担となっていると認識している。

宮田村の産廃最終処分場と同じような背景も認められる。

やむにやまれぬ事情で農地が業者に渡ると、そこに町外からの事業者が参入してくる。それに対し住民が力を合わせ、環境は自ら守るのが鉄則だ。

問　インターネットを見ると、太陽光設備の売買情報が飛び交っている。『予算2000万円で利回り12％以上、希望地域の物件を紹介します』など、安定投資や利殖が目的だ。

これには環境や地域の暮らしに何の配慮も感じられない。特に町外事業者による大規模開発には強い規制をかけるべきではないか。

町長　国の施策で太陽光パネルが有利なビジネスとして急拡大した。しかし太陽光発電がスタートしてから時代も流れ、条例・規則も変わっていくべきだろう。町民みんなで考え、町外業者への規制も法制上可能であれば取り組みたい。

問　飯島町の条例に罰則規定を盛り込んではどうか。また、設置可否の地域協議に町が規制する立場で積極関与してはどうか。

町長　廃棄物に関する条例を、法律家を交えて早急に検討するつもりでいる。大規模太陽光発電にも環境保全という共通点があり、あわせて研究したい。

〔以上１件質問〕

見知らぬ地域をネットで売買

町民の声を議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力をお願いし、町政や議会への意見や感想を掲載しています。
今回は越百クラブ代表の中塚久雄さんと北町こすもクラブ代表の小池昌史（しょうし）さんに登場していただきます。

新鮮野菜を毎日お届け!「三方一両得」で町を元気に!

越百クラブ

会員は町内有志16名です。
会員の思いは熱く、冬の間も休まず、年間を通して遊休農地などを利用して新鮮・低農薬野菜を低価格で町民の皆さんに提供しています。
冬期間にはチンゲン菜・プチベール・小松菜・ほうれん草など。春先には、ふきのとう・ナズナなど「まちの駅いいちゃん」で販売しています。
他には、雑穀・りんご・銀杏や米も並んでいます。
これからの季節は、ハウスで野菜・ドーム菊類など花の育苗を行います。また、会員の農地を利用して、お家にいるお年寄りや、子育て中のお母さん方に、少しの時間でも野菜・花づくりを楽しんでもらいたい、と活動の場を広げていく予定です。
夕方市を毎月3回８の付く日に、生協ケアセンターのワクワク広場で開いており（２月～３月は休み）４月18日から開く予定をしています。

越百クラブ

北町こすもクラブ

コスモ21ショッピングセンターの火が消えてから５年余り、町に元気を取り戻そうと昨年５月から始まった「こすも市」。
地元北町に住む私たちで何かできる事はと考えた中、野菜を出してみようと15名が集まり「三方一両得」の考えで取り組んでいます。
①多くのお客様に来ていただき賑わいを取り戻し、地域の活性化に貢献しよう！
②家庭菜園の安心安全な野菜を低価格で提供し、お客様に喜んでいただこう！
③お互いが情報交換し、工夫し合うことで意欲がわき、自分たちも元気になろう！

北町こすもクラブ

町や議会に望むこと

町の活性化には遊休農地などの活用、住民の触れ合いや交流の輪を広げることが基本です。そんな施策を望みます。
（越百クラブ）
町民として何か行動しようという雰囲気を町長と議会が力強く引張って行ってほしい。
（北町こすもクラブ）

議会だより クイズ

問題 ２つの風でチャレンジする新年度予算。２つの風は何か？ ○○と○○の風。

ヒントは２ページ

正解者５名様にいいちゃん商品券進呈
（締切は5/31、発表は発送をもって代えさせていただきます）

応募要領 住所・氏名・年齢・解答とご意見などをご記入のうえ**ハガキ・FAX・いいちゃんポスト**で、**飯島町議会事務局　議会だよりクイズ係宛**まで

編集後記

3月定例会は新町長初の予算議会。審議の流れを分かりやすく伝えたいと、誌面を工夫してみました。

発行責任者　議長　松下寿雄
編集委員　◎浜田　○橋場
本多・滝本・折山・竹沢

いいじまま町議会だより　第73号　発行・飯島町議会　〒399－3797 長野県上伊那郡飯島町飯島2537番地　編集・議会広報委員会　印刷・㈱宮澤印刷

あなたの声を議会だよりに ☎0265(86)3111 内線230 FAX.86-4395 e-mail gikai@town.iijima.lg.jp